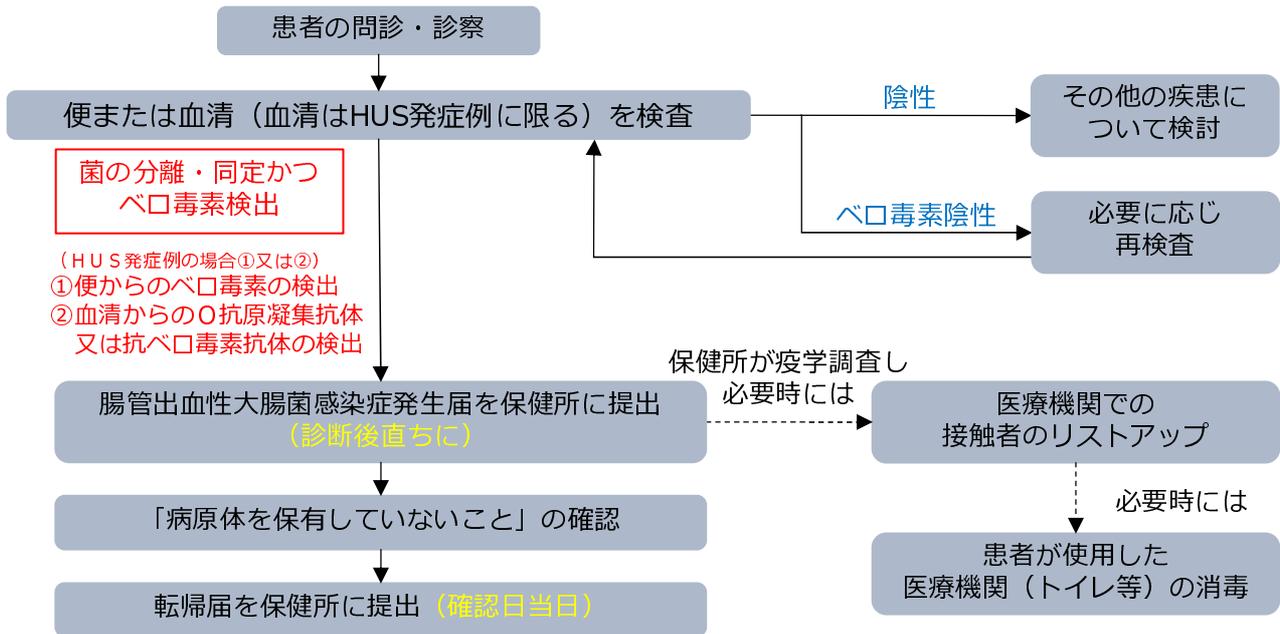


腸管出血性大腸菌感染症

3類感染症

医療機関の対応の流れ



★不明点がある場合には保健所にご相談ください。

届出

- ・検査による診断後に診断した医師より発生届提出 (診断後直ちに)
- ・「**病原体を保有していないこと**」の確認方法に基づき、保健所に転帰届を提出 (確認日当日)
(参考)
学校保健安全法上第3種の感染症に定められており、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止とされている。

医療機関が問診・診察時に確認する情報

- ・発症日からの症状と経過（無症状病原体保有者の場合は症状なし）

腸管出血性大腸菌感染症（潜伏期間：3～5日）
激しい腹痛
頻回の水様便
血便（出血性大腸炎） ・次第に血液の混入が増加、 典型例では便成分の少ない血液そのものの状態になる。
軽度な発熱（多くは37℃台）

重症な合併症
溶血性尿毒症症候群（HUS） ・溶血性貧血、急性腎不全など
脳症 ・痙攣、昏睡など

- ・患者居住地
- ・現在の所在地（入院・自宅）
- ・同居者について（乳幼児、高齢者、妊婦、免疫低下などハイリスク者の有無）
- ・思い当たるエピソード（生肉・加熱不十分な肉の摂取等、または、確定例の患者との接触）
- ・医療機関初診からの投与薬、投与期間
- ・職業・所属（調理師や保育士など感染拡大の恐れがある職業、保育所・幼稚園などの所属か）
- ・（確定例となった場合）保健所が本人または保護者へ連絡することの承諾の有無
- ・海外渡航歴
- ・既往歴/現病歴

接触者の健康診断

- ・感染可能期間は**症状出現後から治癒するまで**
- ・**症状出現後**に使用した院内のトイレや風呂、使用した日付を確認。
- ・上記トイレや風呂を共有した人や物品の共有等を行った人、適切な接触予防策を講じずにおむつ交換や排泄介助を行った人等をリストアップし以下確認。

・ハイリスク（透析等基礎疾患、妊娠、免疫低下）の有無	・接触者の調査時の状態（症状の有無）
・患者との接触状況（日付、場所、接触内容）	